様式第3号(第5条関係)

身体障害者診断書・意見書

総括表　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　(　　　　　　　障害用)

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 氏名 | 　 | 　　年　　月　　日生(　)歳 | 男・女 |
| 住所 |
| ①障害名(部位を明記) |
| ② | 原因となった疾病・外傷名 | 交通・労災・その他の事故・戦傷・戦災疾病・先天性・その他(　　　　　　　) |
| ③疾病・外傷発生年月日　　　　　　年　　月　　日・場所 |
| ④参考となる経過・現症(エックス線写真及び検査所見を含む｡)　　　　　　　　　　　　　　　　　障害固定又は障害確定(推定)　　　年　　月　　日 |
| ⑤総合所見 |
| ⑥将来の再認定の必要性　・要(再認定を要する時期　　年　　月)　　・不要　再認定を「要」とした理由　1　治療等により改善の可能性あり　2　その他(　　　) |
| ⑦その他参考となる合併症状 |
| 　　上記のとおり診断します。併せて、以下の意見を付します　　　　年　　月　　日病院又は診療所の名称　　　　　　　　　　　　　　　　　　所在地　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　診療担当科名　　　　　科　医師氏名　　　　　　　　　　印 |
| 　　身体障害者福祉法第15条第3項の意見(障害程度等級についても、参考意見を記入すること｡)　　　障害の程度は、身体障害者福祉法別表に掲げる障害に　　　　・該当する(　　　　級相当)　　　　・該当しない |
| 　(注)　1　「障害名」欄には、現在起こっている障害(両眼失明、両耳ろう、右上下肢麻痺、心臓機能障害等)を、「原因となった疾病・外傷名」欄には、原因となった疾患等(角膜混濁、先天性難聴、脳卒中、僧帽弁膜狭等)を、それぞれ記入すること。　　　　2　障害区分や等級を決定するため、県又は県社会福祉審議会から改めて照会する場合がある。 |

 HIV(ヒト免疫不全ウイルス)による免疫の機能障害の状況及び所見

(13歳以上用)

|  |
| --- |
| 　1　HIV感染確認日及びその確認方法HIV感染を確認した日　　　　年　　月　　日　　　　(2)についてはいずれか1つの検査による確認が必要である。　　(1)　HIVの抗体スクリーニング検査法の結果 |
| 　 | 　 | 検査法 | 検査日 | 検査結果 | 　 |
| 判定結果 | 　 | 　　年　　月　　日 | 陽性、陰性 |
| 　　(2)　抗体確認検査又はHIV病原検査の結果 |
| 　 | 　 | 検査名 | 検査日 | 検査結果 | 　 |
| 抗体確認検査の結果 | 　 | 　　年　　月　　日 | 陽性、陰性 |
| HIV病原検査の結果 | 　 | 　　年　　月　　日 | 陽性、陰性 |
| 　2　エイズ発症の状況　　　HIVに感染していて、かつ、エイズを発症している者の場合は、次に記入すること。 |
| 　 | 指標疾患とその診断根拠 | 　 | 　 |
| 　 |
| 　 |
| 　 | 回復不能なエイズ合併症のため介助なしでの日常生活 | 不能　・　可能 | 　 |
| 　 |
| 　3　CD4陽性Tリンパ球数(/μl)(左欄には、4週間以上間隔をおいて実施した連続する2回の検査値を記入し、右欄にはその平均値を記入すること｡) |
| 　 | 検査日 | 検査値 | 　 | 平均値 | 　 |
| 　　年　　月　　日 | 　/μl | 　/μl |
| 　　年　　月　　日 | 　/μl |
| 　4　検査所見及び日常生活活動制限の状況　　(1)　検査所見(4週間以上の間隔をおいて実施した連続する2回以上の検査結果を記入すること｡) |
| 　 | 検査日 | 　　年　　月　　日 | 　　年　　月　　日 | 　 |
| 白血球数 | 　　/μl | 　　/μl |
| 　 |
| 　 | 検査日 | 　　年　　月　　日 | 　　年　　月　　日 | 　 |
| Hb量 | 　　g／dl | 　　g／dl |
| 　 |
| 　 | 検査日 | 　　年　　月　　日 | 　　年　　月　　日 | 　 |
| 血小板数 | 　　/μl | 　　/μl |
| 　 |
| 　 | 検査日 | 　　年　　月　　日 | 　　年　　月　　日 | 　 |
| HIV‐RNA量 | 　　copy／ml | 　　copy／ml |
| 　 |
| 　 | 検査所見の該当数［　　　　個］………① | 　 |
| 　　(2)　日常生活活動制限の状況 |
| 　 | 日常生活活動制限の内容 | 左欄の状況の有無 | 　 |
| 一日に1時間以上の安静臥床を必要とするほどの強い倦怠感及び易疲労が月に7日以上ある | 有・無 |
| 健常時に比し10％以上の体重減少がある | 有・無 |
| 　 | 月に7日以上の不定の発熱(38℃以上)が2か月以上続く | 有・無 | 　 |
| 一日に3回以上の泥状ないし水様下痢が月に7日以上ある | 有・無 |
| 一日に2回以上の吐又は30分以上の気が月に7日以上ある | 有・無 |
| 「等級表解説」6ヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能障害(1)のアの(ア)のjに示す日和見感染症の既往がある | 有・無 |
| 生鮮食料品の摂取禁止等の日常生活活動上の制限が必要である | 有・無 |
| 軽作業を超える作業の回避が必要である | 有・無 |
| 日常生活活動制限の数［　　　　個］………② |
| 　　(3)　検査所見及び日常生活活動制限等の該当数 |
| 　 | 回復不能なエイズの合併症のため介助なしでの日常生活 | 不能・可能 | 　 |
| CD4陽性Tリンパ球数の平均値(　/μl) | 　　/μl |
| 検査所見の該当数(①) | 　　個 |
| 日常生活活動制限の該当数(②) | 　　個 |
| 　 |
| 　(注)1　1の(1)の「抗体スクリーニング検査法」では、酵素抗体法(ELISA)、粒子凝集法(PA)、免疫クロマトグラフィー法(IC)等のうち1つを行うこと。　　　2　1の(2)において「抗体確認検査」とは、Western　Blot法、蛍光抗体法(IFA)等の検査をいう。　　　3　1の(2)において「HIV病原検査」とは、HIV抗原検査、ウイルス分離、PCR法等の検査をいう。　　　4　2において「指標疾患」とは、「サーベイランスのためのHIV感染症／AIDS診断基準」(厚生省エイズ動向委員会、1999)に規定するものをいう。　　　5　4の「生鮮食料品の摂取禁止等の日常生活活動上の制限」には、「生鮮食料品の摂取禁止」のほか､｢生水の摂取禁止｣､「脂質の摂取制限｣､「長期にわたる密な治療｣､「厳密な服薬管理」又は「人混みの回避」が同等の制限に該当するものであること。 |